

- 1) 研修会タイトル 平成20年度 療育研修会
- 2) 支部名 日本筋ジストロフィー協会 沖縄県支部
- 3) 報告者名 沖縄県支部長 高嶺正秀
- 4) 実施場所 那覇市松川町 沖縄都ホテル 地下1階「綾羽の間」
- 5) 実施日時 平成20年6月29日(日曜) 10:30~17:30
- 6) 研修会の内容

最近の「筋ジストロフィー症」原因・治療研究成果の進展等明るい光が見えるなか、本年度療育研修会の参加者は近年になく、50名を越え盛況であった。先ず午前11時から新門 登氏の「在宅筋ジス患者の現状・社会活動の取り組みにつて」の講演を行った。自ら筋ジス病と闘い13年前に沖縄病院を退院し在宅治療に変え、治療と自立生活・社会活動参加に取り組み、現在は障害者介護支援事業所を立ち上げ、多くの在宅障害者と派遣介護士等を雇用して、在宅筋ジス患者を始め在宅障害者の生活介助支援に取り組んでいる。この事業立ち上げに至るまでの苦労等の講話であった。同氏の社会活動の影響を受け、現在これら派遣介護士の事業を数名の在宅筋ジス患者それぞれが事業所を立ち上げ営業を活動している。会員・家族に大きな感動を与えた。 昼食後、午後1時30分より講師・独立行政法人国立病院機構沖縄病院筋ジス病棟 医師の諏訪園秀吾先生：「沖縄病院での病院の経営上の治療の現状・取り組み」について講演とその後個別の医療説明を実施したところ延々と続き終了は午後6時となった。沖縄病院筋ジス病棟医師との懇談は久しく途絶えており、患者・家族の真剣な面持ちに接し今回の療育研修の意義効果が大きく、会員に好評であったことが大きな喜びであった。諏訪園秀吾先生の講演では「最近の筋ジス病棟の入院患者では、筋ジスの患者が減少しており病院の経営上他の神経疾患の患者が入院している。筋ジス患者の多くが器官切開をしており、治療では支障なく経過を見守っている」



